

総合計画に関する調査研究特別委員会
文教分科会長 長野春信様

氏名 朝倉 幹晴

基本計画に対する意見(文教分科会)

基本施策：7 子育て支援 / 8 学校教育 / 9 生涯学習 / 10 文化・スポーツ

意見 「《1. 現状と課題》予測困難な社会の変化に主体的に関わり、自ら考え可能性を發揮する「生きる力」を身に付けるとともに、ふるさと船橋を愛し心豊かでたくましい人づくりを目指します。」

の「ふるさと船橋～」以降を次のように書き換える。

「心豊かでたくましく、郷土や世界に想いを馳せながら次の時代を創り出すことができる次世代育成を目指します。」

理由 子どもたちの想いを「ふるさと船橋を愛し」に限定すべきでない。実際に船橋の小中学校を卒業した元児童・生徒は、成人後も船橋ですっと住み続けるとは限らない。日本の各地あるいは海外に住み活躍していく元児童・生徒も多い。船橋を包含しながら、日本のどこに住んでもその土地に愛着を持つという意味で「郷土」、さらに「世界」という表現に修正したほうがよい。また「愛す」という強い表記ではなく「想いを馳せる」で十分ではないかと思う。

そして、船橋の元児童・生徒達が成長し、次の時代を創り出すということを明記すべきである。(主旨をおくみとりいただければ、上記の表現のみにこだわるわけではなく、表現の微修正は検討いたします)

基本施策：7 子育て支援 / 8 学校教育 / 9 生涯学習 / 10 文化・スポーツ

意見 施策1 教育内容の充実

「自立して、主体的に社会に関わることができる子供を育成するため、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体づくりを進めます。」

については以下のように修正をすべきである。

「自立して、主体的に社会に関わり次の時代を創り出すことができる次世代を育成するため、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体づくりを進めます。」

理由 元児童・生徒たちは5～10年程度で成人となり次世代の中心となっていく。したがって「子供を育成」という表現より「次世代を育成」としたほうがよい。そして、その次世代を担う元児童・生徒たちが、既存の社会に関わるだけでなく、次の時代を創り出すことができることを明記すべきである。(主旨をおくみとりいただければ、上記の表現のみにこだわるわけではなく、表現の微修正は検討いたします)